

JSS 海外安全速報

イランの軍事司令官の殺害で懸念される報復攻撃

《中東地域：情勢》

1月3日(金)、イラクのバグダッド国際空港で「イラン革命防衛隊(IRGC)」の有力人物であるカーセム・ソレイマニ将軍の乗った車列が攻撃を受け、情報は錯綜しているもののソレイマニ将軍を含む5人から7人が死亡した。

米国防総省は声明を発出し、同作戦が「トランプ米大統領の指示によって実行された」ことを認め、作戦の目的は「イランによる将来の攻撃を阻止するため」だと述べた。

米国は今回の作戦を実行した直接的な要因について明らかにしなかったものの、ここ数日、両国関係を悪化させる事件が立て続けに起きていた。

12月27日午後7時20分頃、イラク北部キルクーク県にあるK1軍事基地で親イラン民兵組織によると見られるロケット弾攻撃によって、米国人の民間人(請負業者)が死亡した。

一方、12月29日には米軍がイラク、シリアでシーア派民兵組織「ヒズボラ旅団」に対する空爆を実施し、少なくとも25人のシーア派民兵が死亡した。これに対して31日、イラクの親イラン民兵組織が在イラク米大使館を襲撃した。

ソレイマニ将軍は過去20年にわたり、イランが実施した主要な軍事作戦のほとんど全てに関わってきたとされる。イランの軍事・情報機関における事実上の最高意思決定者と見做されており、イラン国内で絶大な人気を誇るソレイマニ将軍の殺害で緊張は最高潮に達したとも言える。

将軍の死を受け、イランの最高指導者アリ・ハメネイ師は3日間の服喪を宣言するとともに、攻撃の責任者への報復を呼びかけた。ロウハニ大統領もまた、「イランは報復するだろう」と宣言し、ザリフ外相はツイッター上で「野蛮で愚かな米国人テロリストによる暗殺は地域および世界中での抵抗運動を拡大させる」と述べた。

一方、在イラク米大使館はイラク国内にいる自国民に対して「可能な限り空路で、不可能な場合は陸路で他の国へ退避」するよう呼びかけた。

今後、イランは何らかの報復を実施する可能性が高い。最もあり得そうなのは中東地域、

特にイランの影響力の強いイラク、レバノン等における米外交施設への襲撃や、イラク国内の軍事基地に駐留中の米軍、または米国権益に対する攻撃である。その他にも米国の同盟国イスラエルに対するレバノン、シリア、ガザ地区からの親イラン民兵組織からの攻撃、同じく主要な同盟国であるサウジアラビアに対するイエメンの親イラン民兵組織からの攻撃の可能性なども排除できない。

以 上

本レポート内容の全部または一部の転送・転載・第三者への提供を厳禁します。